

バイタルリンク運用好事例紹介（その14）

～情報連携による病診連携～

●【事例】肺がん 50代 女性

202X/9/4(木)



理学療法士

件名：動作時の息切れと仰臥位になれなくなっています
口内炎出来てしまい、食事が少なくなっていると。トイレ後息切れあり。
昼夜咳あり、ベッドアップ 30 度位しないと臥位になれず。痰に血が混じる。
本日訪問時座位で、SAT95%脈拍 133 回→歩行後 SAT92%脈拍 125 回息切れあり、本人少し息苦しいと、3 分分で 95%に戻る。2 日のヘルパーさんとの入浴は体調良くないから入らなかった。「体調良くないを詳しく聞くが、少し怠いくらいの表現のみ。
今日は本人から肩が凝ってとの事で座位でマッサージと軽い体操と、トイレまでの廊下歩行を確認してます。

202X/9/04(木) 14:31

202X/9/5(金)

理学療法士からの報告を元に医師が在宅酸素（HOT）と医療用麻薬（モルヒネ）を導入



医師

件名：在宅酸素導入、オプソ処方しました
ご報告をふまえて、本日臨時往診しました。
右肺胸水貯留による労作時呼吸苦増悪と考えます。
労作時 2L で在宅酸素導入、呼吸苦時にオプソ 5 mg 処方しています。
酸素化、呼吸苦の程度、オプソ内服状況、日常生活動作についてモニタリングをお願いします。

202X/9/05(金) 18:34



医師

件名：看取りを視野に入れた在宅療養の継続を本人、弟希望しています
在宅酸素導入を一つの契機に、原病増悪に伴い療養の場についての考えを聞きました。
本人は「家が良い、病院は嫌です」。母は「本人がそういうなら、やはり家が良いでしょうね」。
キーパーソンの弟に電話で状況を報告しましたが「●●病院から退院する時にこれからはずっと家で、可能なら最期まで家でと三人で話し合っていました。姉が今もそういう考えなら、そのように過ごさせてあげてほしい。ご迷惑をおかけしますが、苦しいのを取りながらの治療をお願いします。何かあったら自分も（名古屋から）行くことができます」。

ACP 202X/9/05(金) 18:39

202X/9/17(水)

クリニック事務がCT検査を含む外来受診を予約し、情報をバイタルリンクに登録



事務職

件名：診療情報提供書（総合病院）
9/19（金）11 時受診予定です。



PT0004. pdf



PT0005. pdf

診療情報提供書 検体検査 202X/9/17(水) 13:57



ケアマネジャー

件名：受診日変更

総合病院の担当医のご都合で受診日が変更となりました。
9月22日（月）15：00です。

介護タクシー 14：30 車椅子にてお迎え
院内付き添い、帰宅後ベットまで介助。

携帯酸素についてご使用が初めてとのこともある為、訪問看護師さんにより
出発前に装着等サポート依頼済です。

202X/9/17(水) 17:21

ケアマネジャーが検査日時変更に伴う再調整を行った

○介護タクシーの手配 ○サポートの為の訪問看護師の計画 等

202X/9/22(月)

総合病院の医療ソーシャルワーカーがバイタルリンクの情報を閲覧し、
診療に役立つ内容をかいつまんで病院担当医に共有



ケアマネジャー

件名：外来受診 無事終了

CT検査及び医師の診察を無事終了いたしました。（院内同行させて頂きました）

途中、携帯酸素ボンベ残量が心配だったので病院の酸素ボンベに替えていただき対応。

16：40頃、会計終了し、介護タクシーにて帰宅。

院内では咳き込むこともなく落ち着いて受診できました。

診断について医師からの話も落ち着いて聞いてもらっていました。

ご本人には、医師より、「肺がんが進行していること、有効的な治療がない事、酸素と麻薬を使用し
苦しさを和らげることができる事、麻薬は悪いことではない」という説明があり、予後の話はありま
せんでした。

最後に、ご担当医より在宅の先生始めケアにかかわるチームにねぎらいの言葉をいただきました。

202X/9/22(月) 17:21

お迎え（14:30）から会計終了（16:40）及び帰宅まで滞りなく実施され、
報告時刻（17:21）を見ても、一連の流れがスムーズであったことがわかる

推奨する利用方法

在宅医療・ケアに係るチームが登録しているバイタルリンク内の情報は
病院受診時においても有益である。

病院全体・全スタッフを登録する形での運用は容易ではないが、
連携窓口である医療ソーシャルワーカーや地域連携室のスタッフが
バイタルリンクから情報を取得し、病院担当医へ伝達することによって
病院と地域が一体となって対象者に切れ目のない医療を提供しうる。